３－４　トキ交流会館～天王川～加茂湖～トキの森公園コース（水辺、牡蠣養殖、里山）

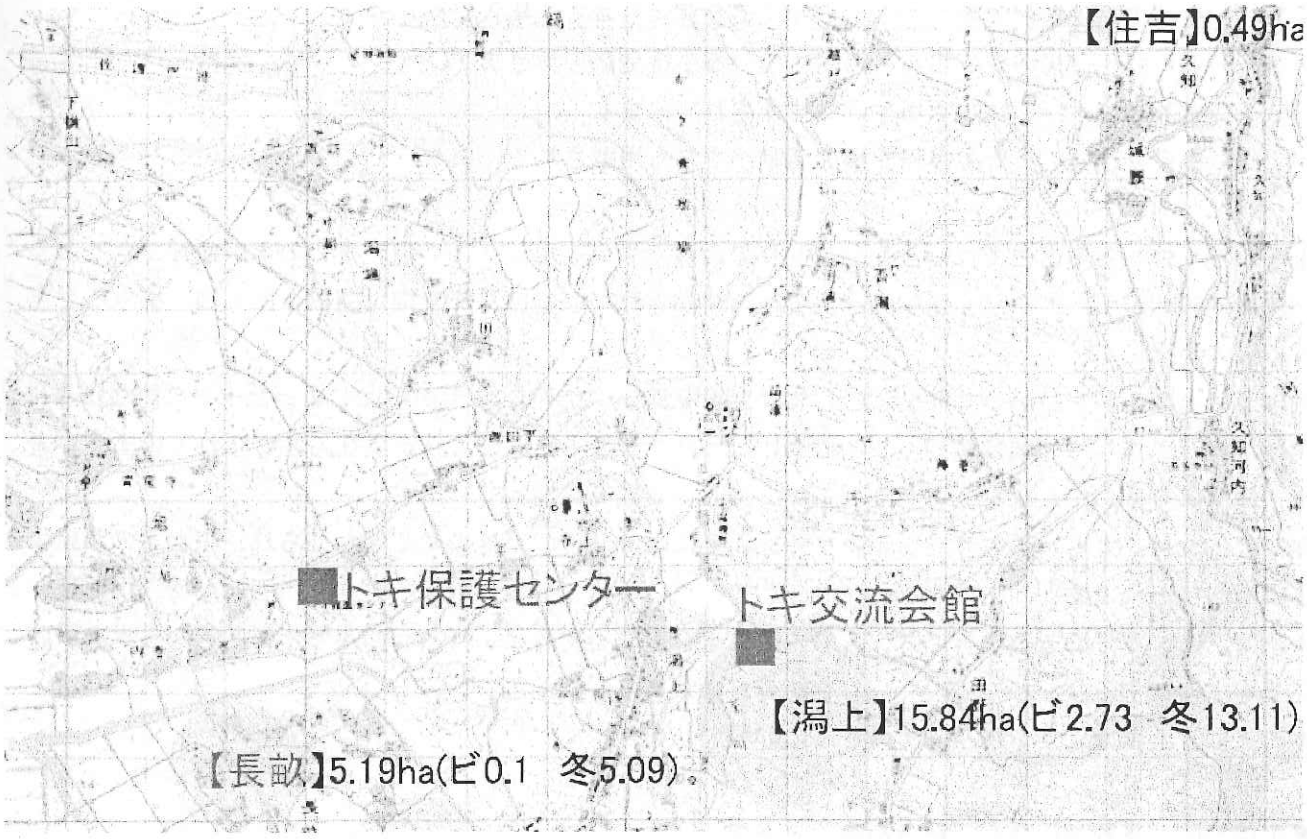
トキ交流会館から天王川を下って加茂湖にたどり着き、トキの森公園まで向かいます。
川から湖のつながり、里での農業と湖での漁業、それぞれの場所の特徴や生きものなどを体験しながら、トキや鳥たちが好きな（自然と共生できる）自然の多様性を感じます。

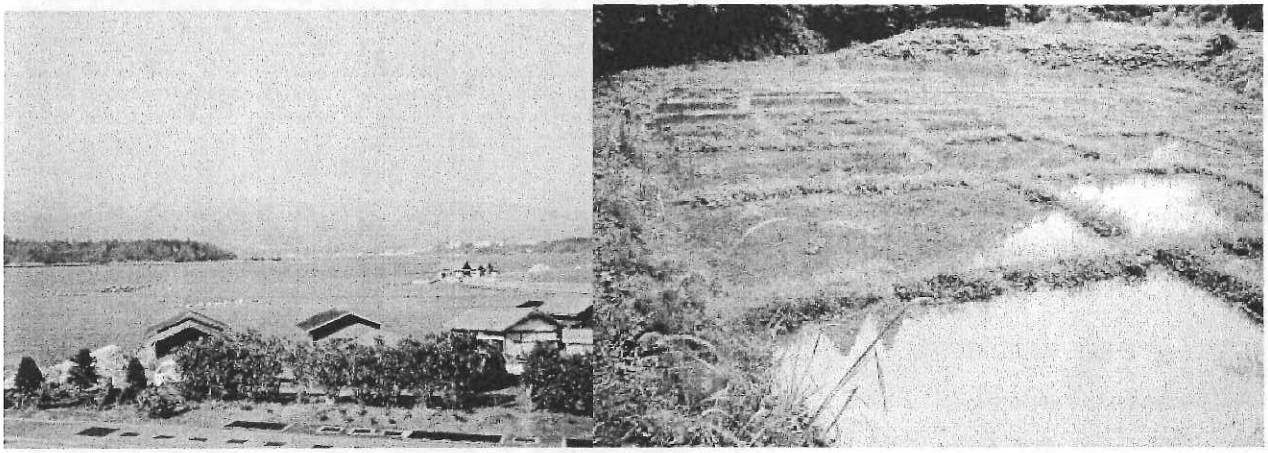
地元の農家が案内人となり、天王川の周辺の田んぼ、あぜ道、川と田んぼのつながり、河口と湖のつながり、それぞれの場所に暮らす生きものや、それぞれの場所を人間が農業や漁業、生活でどのように利用しているのか、話を聞きながら散策します。また、加茂湖からトキの森公園にかけては、試験放鳥したトキが利用したことのある止まり木やエサ場となったところがありますので、案内しながら、今、いる鳥や生きものを観察します。
佐渡では牡蠣の養殖も盛んなので、牡蠣殻の山などをみながら川を通じた海と湖、川、里、山のつながりを感じさせます。案内人は、トキとの共生に向けた農業や漁業、生活、身近な生きものとの関わりについて話ができる人です。

■加茂湖と牡蠣養殖、トキとの関わり
佐渡島には新潟県で一番大きな湖の「加茂湖」があります。周囲 17 キロメートル、面積は 4.9 平方キロメートルあり、現在は海水湖ですが、 1902 年（明治 35 年）に両津湾につながるまでは淡水湖でした。
今では、約 1000 台の牡蠣養殖筏（いかだ）が加茂湖に浮かび、90 人の漁業者が牡蠣を育て、広島や三陸と並んで牡蠣の産地として全国に名前を知られるようになりました。
静かな湖面に浮かぶカキ筏と雪化粧をした大佐渡の山々は、加茂湖の冬の風物詩です。
加茂湖の牡蠣とトキがかつて暮らしていた小佐渡の山々には深いつながりがあります。
牡蠣のえさは加茂湖のプランクトンです。それを育てているのが、小佐渡の山々の森から加茂湖に注ぎ込む川や沢のきれいな水と森の養分なのです。
トキが暮らせる森をつくることは、加茂湖の牡蠣を育てることにつながります。
加茂湖漁業協同組合は、新潟県漁業協同組合連合会の一員として、平成 14 年から毎年「朱鷺と牡蠣の森づくり」事業を実施、かつてトキが暮らしていた小佐渡の山に木を植えたり、森の手入れをして、トキの野生復帰のお手伝いをしています。

必要な道具：ハイキングの服装、歩きやすい靴、タオル、水筒。たも網、プラスチック水槽、虫取り網、虫かご、双眼鏡など。

所要時間：往復、休憩、観察、遊び時間を入れて４時間。





加茂湖。手前左に見える白いものは牡蠣殻の山。交流会館近くの小学生体験学習ビオトープ

■ねらい

田んぼ、水路、川、湖、海と水のつながりを意識しつつ、３－３と同様に生きものと自然、人と自然の交ざり合った里山の暮らし、自然、環境を体験します。牡蠣の養殖のように「エサをやらなくても、自然の循環の中で育つ生きもの」という視点で、牡蠣山などを見学させ、自然の資源力、回復力、生産力を感じさせます。